

④中小企業等事業再構築促進事業(論点シート)

論点1 無駄な補助がなされないようにすべき。

- 約 67,000 者という採択予定件数が支援すべき対象に対して適切な規模かどうか、検討すべき。
- 予算ありきで採択をしていくと、本来自ら投資すべき事業や、当初より撤退が予定されていた事業に対する補助が行われることになりかねないため、審査を厳格に行うべき。
- 金融機関のコミットを求め、融資先として不適切と考えられている事業者に補助がされないようにすべき。
- 成果を高めるため、補助事業の進捗を途上で把握すべき。

論点2 効率的な事業運営を行うべき。

- 事務局経費が 400 億円を超えるなど大規模であるため、効率的な運営を行うべき。

論点3 成果測定の実施方法を十分検討すべき。

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた時期と比較すると、成長目標の達成が容易になってしまうため、付加価値額の増加率等の成果測定に当たっては、比較対象をよく検討すべき。
- 成果目標は事業者の規模や補助対象事業の性質によって、異なるものを設定すべき。
- 補助金を受けなかった事業者と補助金を受けた事業者を比較し、補助金の純粋な効果を測定する方法を検討すべき。その際、(特に補助金を受けなかった事業の申請時及びそれ以降の財務情報など、)検証に必要なデータの整備に取り組むべき。
- 審査基準が全て定性的な書きぶりになっており、政策効果を検証する際に審査員のバイアスを検証することが困難であることから、可能な限り審査基準は定量的に設定することを検討すべき。